

甲 第 号

中島拓紀 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

| 報告番号 | 甲 第 号 | 氏 名 | 中島拓紀 |
|---------|--------|-----|------|
| 論文審査担当者 | 委員長 | 教 授 | 西尾健治 |
| | 委 員 | 准教授 | 山崎正晴 |
| | 委 員 | 教 授 | 石井均 |
| | (指導教員) | | |

主論文

Dapagliflozin improves treatment satisfaction in overweight patients with type 2 diabetes mellitus: a patient reported outcome study (PRO study).

ダパグリフロジン投与における肥満 2 型糖尿病患者の治療満足度への影響
: a patient reported outcome study (PRO study)

Hiroki Nakajima, Sadanori Okada, Takako Mohri, Eiichiro Kanda,
Naoyuki Inaba, Yoko Hirasawa, Hiroaki Seino, Hisamoto Kuroda, Toru
Hiyoshi, Tetsuji Niiya, Hitoshi Ishii
Diabetology & Metabolic Syndrome 2018, 10; 11

論文審査の要旨

SGLT2 阻害薬の利点は血糖降下のみならず、体重減少や、降圧作用とともに、低血糖リスクが少ないことがあるが、欠点として陰部感染症や脱水、頻尿等がある。このような利点と欠点を含めて、SGLT2 阻害薬が治療満足度を改善するかは明らかになっていない。本研究は、経口糖尿病薬で治療中の肥満 2 型糖尿病患者に対して、ダパグリフロジン(SGLT2 阻害薬)が及ぼす HbA1c と体重、質問紙で評価した治療満足度への影響について検討したものである。

多施設共同前向き単一群オープンラベル試験として、肥満 2 型糖尿病患者を対象に 14 週間ダパグリフロジンを投与して、生理学的・生化学的な評価と治療満足度の評価が行われた。治療満足度は質問紙の Oral Hypoglycemic Agent-Questionnaire (以下、OHA-Q) ver.2 が使用された。OHA-Q ver.2 は OHA-Q に SGLT-2 阻害薬に特異的な症状の 3 項目を追加して作成され、本研究でその妥当性と信頼性を検証し、十分に計量心理学的に使用できることが示された。主な結果として SGLT-2 阻害薬は治療満足度を改善することが分かった。体重減少は治療満足度の改善に弱く相関することが分かった。これより、SGLT-2 阻害薬は血糖降下のみでなく、体重減少の作用が治療満足度に対して重要である可能性が示された。本研究は、SGLT-2 阻害薬の追加は医学的な面のみでなく患者の満足度を改善する可能性があることを示した点で有意義であり、またその手法の確立は今後の糖尿病学の発展に寄与する研究と評価される。さらに公聴会における質疑応答も適切であり、学位に相当すると考えられる。

参 考 論 文

1. Reproducibility and Validity of a Questionnaire Measuring Treatment Burden on Patients with Type 2 Diabetes: Diabetic Treatment Burden Questionnaire (DTBQ).
Ishii H, Shin H, Tosaki T, Haga T, Nakajima Y, Shiraiwa T, Watanabe N,
Koizumi M, Nakajima H, Okada S, Mashitani T, Mohri T, and Akai Y.
Diabetes Ther. 2018 Jun; 9(3): 1001–1019.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに糖尿病学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 30 年 11 月 13 日

学位審査委員長

総合臨床病態学

教授 西尾健治

学位審査委員

臨床検査医学

教授 山崎正晴

学位審査委員（指導教員）

糖尿病学

教授 石井均